砥石などがある。木器では、木簡のほかに井戸枠に用いられていた曲物や板材、曲物の杓・箸状木製品・漆椀などがある。

8　木簡の釈文・内容

(1)　「〈（符籙）□□□□□□□〔急々如律令カ〕」　460×55×5　033

一部を欠損するだけで、ほぼ完形品である。符籙部分は冒頭に一八星または一八神の模様を描く。木簡の釈読は水野正好氏による。

（宮下幸夫）

石川・金石本町遺跡

1　所在地　石川県金沢市金石本町

2　調査期間　第九次調査　一九九六年（平8）五月

3　発掘機関　金沢市教育委員会

4　調査担当者　久保有希子

5　遺跡の種類　官衙跡

6　遺跡の年代　弥生時代中期・古墳時代前期・飛鳥時代・奈良時代～平安時代

7　遺跡及び木簡出土遺構の概要

金石本町遺跡は金沢市内を流れる犀川右岸の河口付近にあり、自然湧水や水運に恵まれた場所に位置する。これまでに、石川県立埋蔵文化財センター・金沢市教育委員会によって、計八回発掘調査が行なわれている。奈良・平安時代を中心とした遺跡で、三間×九間の大型掘立柱建物や倉庫群、河道跡などが

（金　沢）

確認されている（金沢市教育委員会『金石本町遺跡』ⅠⅡⅢ　一九九六年）。

このうち河道跡は、幅は広い地点で二〇～三〇m以上、狭い地点で六m強、深さは、深い地点で二m以上であることがわかっている。人工的に掘削したものではなく自然流路と考えられているが、橋脚または船着き場の設備の一部と考えられる杭や、護岸・土留めまたは荷揚げ施設と考えられる杭列などが確認されるなど、人の手を加えて利用していることが想定されている。この遺構からは、古墳時代から奈良・平安時代にわたる遺物を中心として、木簡三点（県立埋蔵文化財センターによる第八次調査。同『金石本町遺跡』　一九九七年）、約二〇〇点以上もの墨書土器、斎串、人形、舟形などの祭祀遺物や浄瓶などが出土している。

今回の調査で確認された遺構は、大規模な河道の一部で、調査区全体がこれに占められていた。そのため、河道の幅、深さなどは確認できなかったが、既往の調査で検出している河道に続くものであろう。八、九世紀の遺物が中心であり、木簡、須恵器、土師器、墨書土器約二〇点、曲物三点、斎串と人形各一点などが出土している。主な墨書としては「万麻呂」「稲麻呂」「吉成」などがある。

8　木簡の釈文・内容

(1)　「二月廿八日槐本連甲奉米一石」　240×22×6　051

形状は方頭で先端を尖らせている。墨痕は表のみで裏面には認められない。なお、木簡の釈読は、国立歴史民俗博物館の平川南氏による。

（久保有希子）